

2025年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2024年8月5日



品川リフラクトリーズ株式会社

目次

1. 連結業績ハイライト
2. 営業利益（連結）の増減要因
3. セグメント別売上高及び営業利益
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 2025年3月期の通期業績見通し
9. 地域別の売上高
10. トピックス（赤穂工場 新プラント）

1.連結業績ハイライト

(単位：億円)

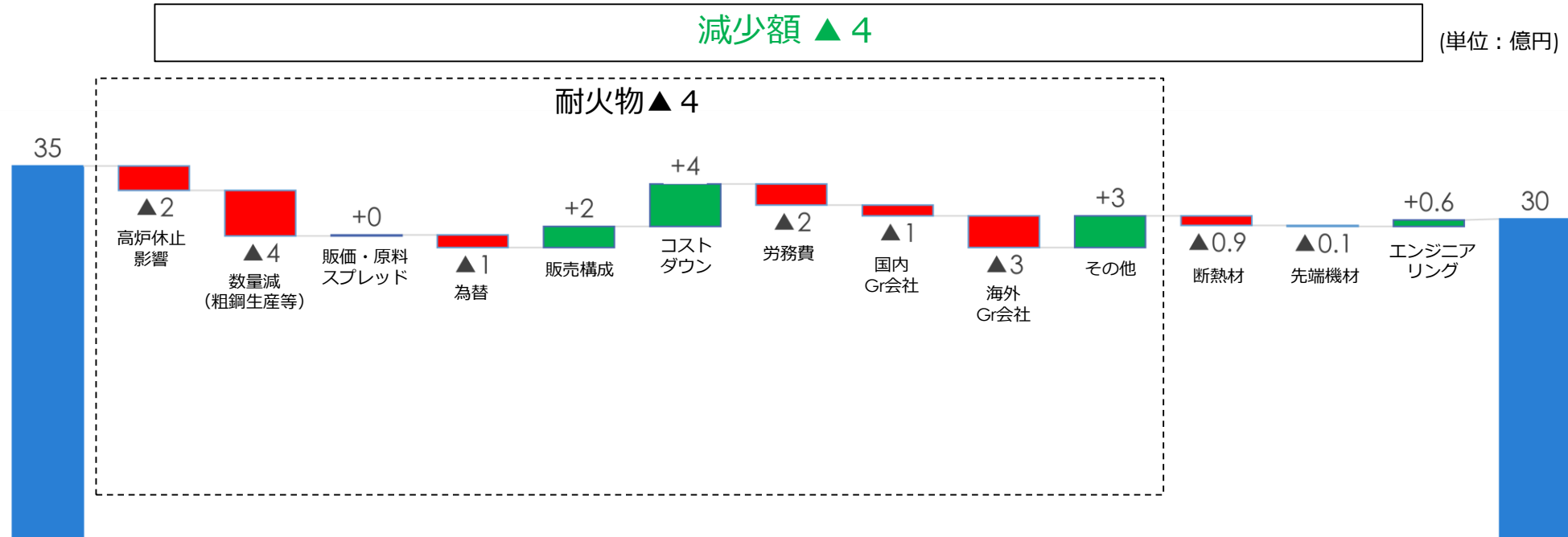
	2024年3月期 第1四半期 実績	2025年3月期 第1四半期 実績	前年同期比	
売上高	366	338	▲28	(▲7.6%)
EBITDA	44	39	▲4	(▲10.4%)
営業利益	35	30	▲4	(▲13.3%)
経常利益	38	36	▲2	(▲7.3%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	68	29	▲39	(▲57.7%)
<指標> ROS (営業利益率)	9.6%	9.0%	▲0.6pt	
ROIC	9.5%	7.8%	▲1.7pt	

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2025年3月期 第1四半期 国内粗鋼生産量は前年同期比4.4%減の2,124万トン。
- 国内外への拡販活動、販売構成の改善によるスプレッドの拡大等を進めたものの、国内粗鋼生産の減少を起因とする耐火物販売数量の減少等により売上高・各段階利益共に減収・減益。
- 前年同期は固定資産売却益64億円を計上したことに対して、当第1四半期には大きな固定資産売却益がないことから親会社株主に帰属する四半期純利益は57.7%減。
- 経営環境は当初の想定よりも厳しさが増しているものの、当第1四半期の連結業績は、当初に策定した経営計画の水準に概ね達している。

2.営業利益（連結）の増減要因



2024年3月期
第1四半期

2025年3月期
第1四半期

販売構成の改善やコストダウン活動を継続したものの、高炉休止影響や国内粗鋼生産量減少による耐火物販売数量減、Gr会社のマイナス要因等により、営業利益（連結）は▲4億円の減益。

3.セグメント別売上高及び営業利益

(単位：億円)

		2024年3月期 第1四半期実績	2025年3月期 第1四半期実績	前年同期比	
耐火物	売上高	256	231	▲24	(▲9.6%)
	営業利益	22	18	▲4	(▲18.6%)
断熱材	売上高	45	41	▲3	(▲8.4%)
	営業利益	8	7	▲0.9	(▲11.4%)
先端機材	売上高	9	10	+1	(+13.5%)
	営業利益	0.5	0.4	▲0.1	(▲24.6%)
エンジニアリング	売上高	55	57	+2	(+3.6%)
	営業利益	2	3	+0.6	(+26.8%)
その他（不動産）	売上高	2	2	+0	(+0.2%)
	営業利益	1	1	+0	(+5.5%)
合計	売上高	366	338	▲28	(▲7.6%)
	営業利益	35	30	▲4	(▲13.3%)

注1：2024年4月より「セラミックス」セクターから「先端機材」セクターに組織改編

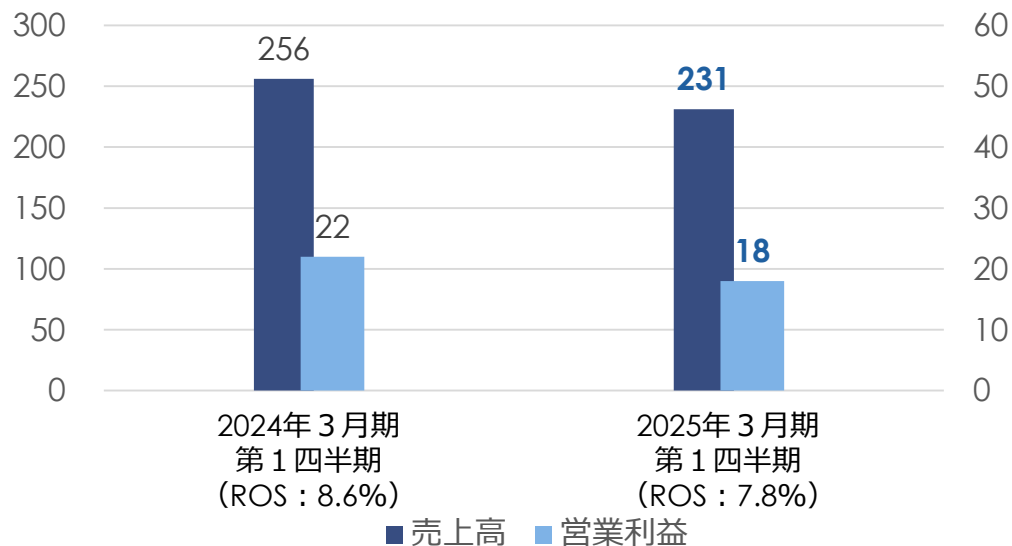
注2：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

4.セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	256	231	▲24	(▲9.6%)
営業利益	22	18	▲4	(▲18.6%)
ROS (営業利益率)	8.6%	7.8%	-	(▲0.8Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ お客様の高炉休止や国内粗鋼生産の減少により当社および国内Gr会社の販売数量が減少
- ▶ 海外Gr会社でもお客様の活動水準の低下により販売数量が減少

<今後の課題>

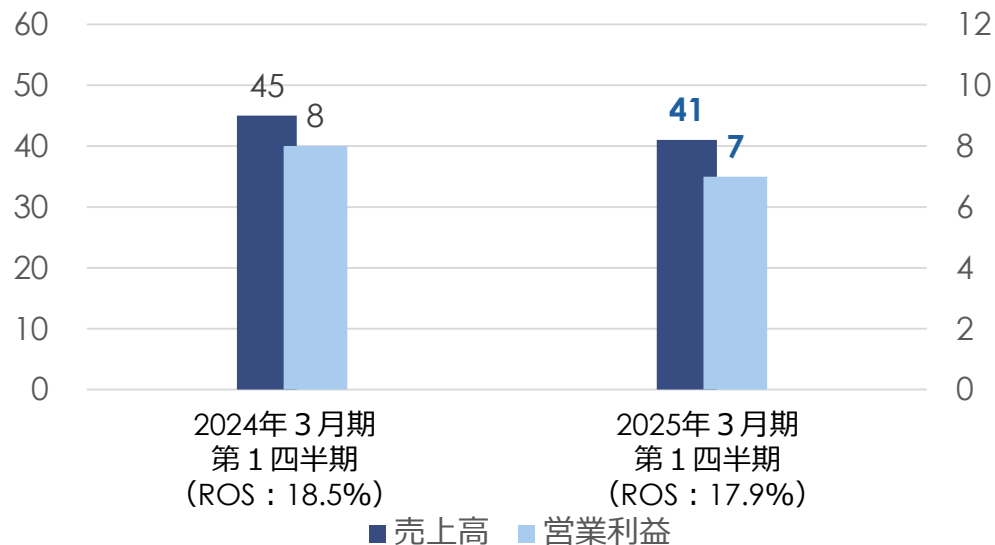
- ▶ 機能性耐火物を中心とした国内外への拡販活動
- ▶ 個別商品のスプレッドを維持するための価格改定
- ▶ 事業全体のスプレッド拡大に向けて低収益品の受注見直しと高収益品の拡販による販売構成の改善
- ▶ 代替原料の活用や工場の生産性向上によるコストダウン効果の発現

5.セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	45	41	▲3 (▲8.4%)
営業利益	8	7	▲0.9 (▲11.4%)
ROS (営業利益率)	18.5%	17.9%	- (▲0.6Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ 国内の耐火断熱レンガの販売は増加
- ▶ セラミックファイバー関連製品の販売が工業炉を中心に端境期で減少
- ▶ 半導体関連製品の国内需要が減少

<今後の課題>

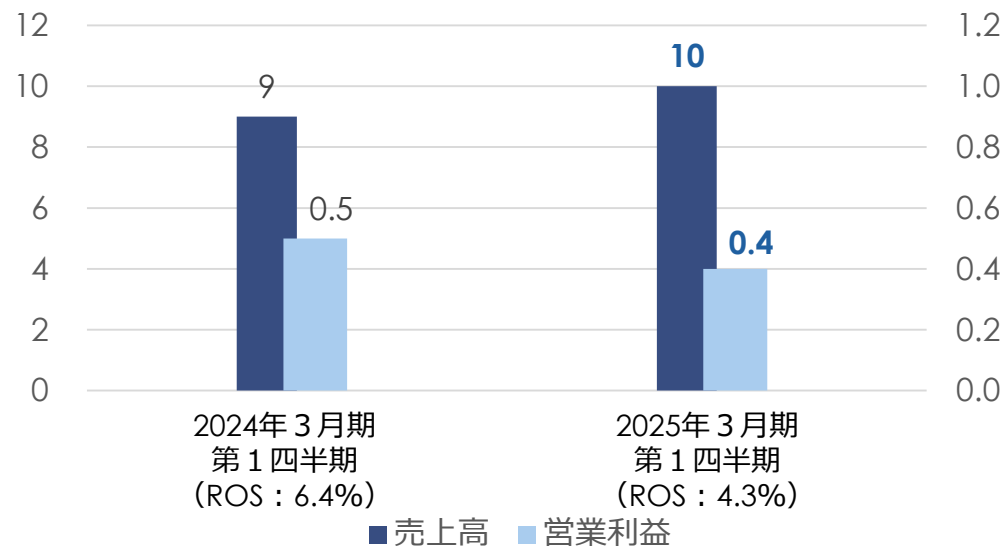
- ▶ セラミックファイバー関連製品を中心とした国内外への拡販活動
- ▶ 下期から回復が見込まれる半導体・電子部品関連製品の拡販
- ▶ 建材向け製品の販売強化
- ▶ 原燃料の高騰に対して価格改定およびコストダウンでの対応

6.セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	9	10	+1	(+13.5%)
営業利益	0.5	0.4	▲0.1	(▲24.6%)
ROS (営業利益率)	6.4%	4.3%	-	(▲2.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ 主に半導体製造装置向け部材の国内需要が減少し、ファインセラミックス事業は減収・減益
- ▶ 一方で、新たに加わったコムイノベーション社の業績が寄与し、若干の増収

<今後の課題>

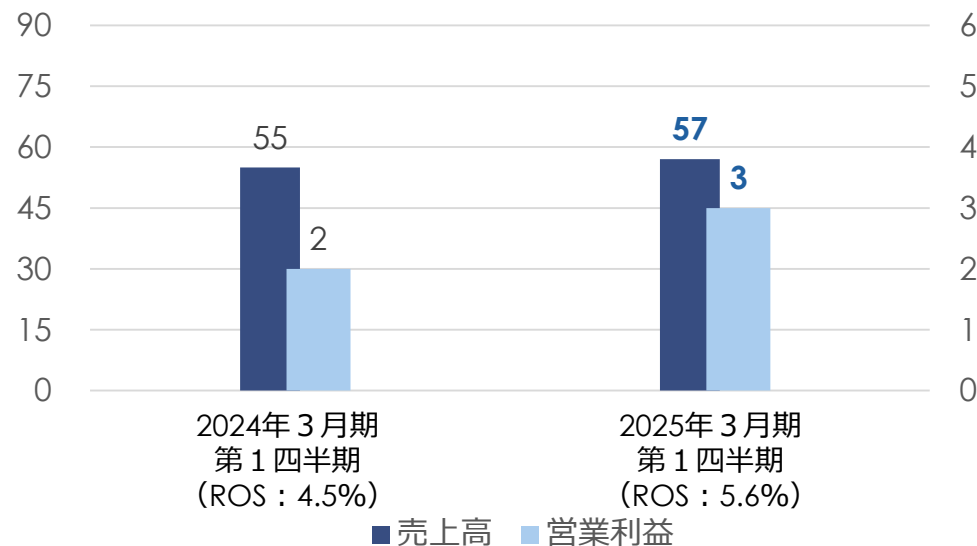
- ▶ 液晶関連製品等での技術対応および販売強化
- ▶ 新規顧客への拡販
- ▶ 耐熱塗料製品の販売強化
- ▶ 原燃料の高騰に応じた価格改定

7.セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	55	57	+2	(+3.6%)
営業利益	2	3	+0.6	(+26.8%)
ROS (営業利益率)	4.5%	5.6%	-	(+1.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ 人件費の上昇に伴う工事契約単価改定を実施
- ▶ 計画外の大型工事案件を受注

<今後の課題>

- ▶ カーボンニュートラル案件（大型電気炉、カーボンリサイクル高炉）の対応
- ▶ 大型建設工事案件の受注
- ▶ カーボン焼成炉等の工業炉分野での受注拡大
- ▶ 新技術の導入・開発による作業効率化の推進

8. 2025年3月期の通期業績見通し

(単位：億円)

	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期見通し
売上高	1,441	1,430
EBITDA	176	185
営業利益	138	145
経常利益	149	150
親会社株主に帰属 する当期純利益	152	100
<指標> ROS（営業利益率）	9.6%	10.1%

注：2025年3月期の通期業績見通しは、2024年5月13日に公表の数値

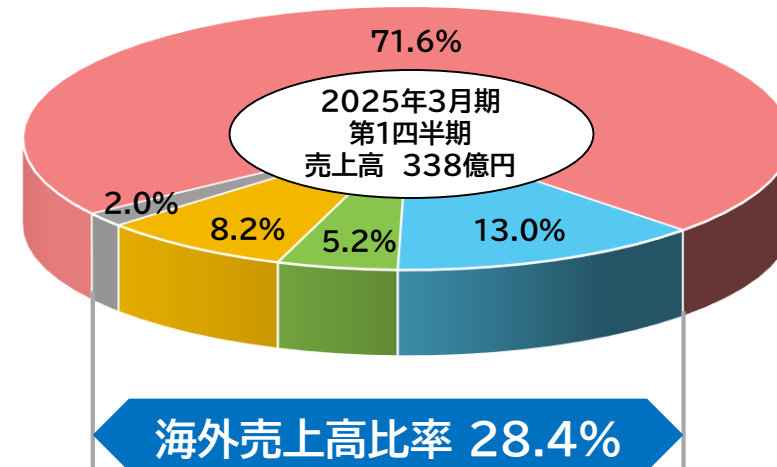
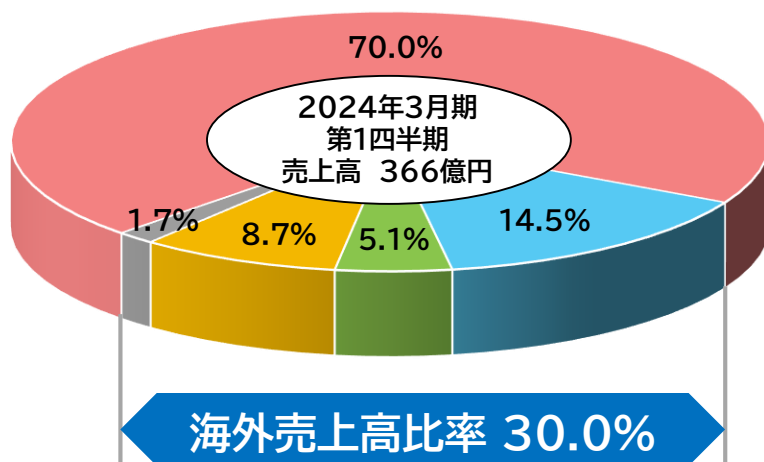
- 2025年3月期 通期の見通しは、お客様の生産体制再編の影響等により売上高は減収見込み。
- 経営環境は当初の想定よりも厳しさが増しているものの、当第1四半期の連結業績は当初に策定した経営計画の水準を概ね達成している。当第2四半期以降も引き続き、低収益品の受注見直しや高収益品の拡販による販売構成の改善、価格改定、コストダウン等を進めることにより、親会社株主に帰属する当期純利益を除く各段階利益は増益見込み。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に固定資産売却益64億円を計上したことに対して、当期には大きな固定資産売却益がないことから減益見込み。
- 厳しい経営環境の中ではあるものの、諸施策の実行により2024年5月13日に公表した2025年3月期 通期業績見通しを達成の見込み。

9. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比
日本	256 [70.0]	242 [71.6]	△5.6%
アジア・オセアニア	53 [14.5]	44 [13.0]	△17.3%
北米	18 [5.1]	17 [5.2]	△5.2%
南米	31 [8.7]	27 [8.2]	△12.9%
その他海外	6 [1.7]	6 [2.0]	+9.9%
合計	366 [100.0]	338 [100.0]	△7.6%
	海外計 109億円 (30.0%)	海外計 96億円 (28.4%)	

注: []内は、地域別の売上高構成比(%)



当第1四半期は、前年同期比で海外売上高比率が1.6%低下しているが、これは海外のお客様の活動水準が低下し耐火物販売数量が減少したことによる一過性のものであり、当初の計画通り、海外売上高比率をアップしていく方針。

10. トピックス（赤穂工場 新プラント）

【内容】

- 2021年度上期より、赤穂工場に不定形耐火物の最新鋭プラント建設を開始
- 新プラントは2024年4月に完成し、6月12日に竣工式を実施

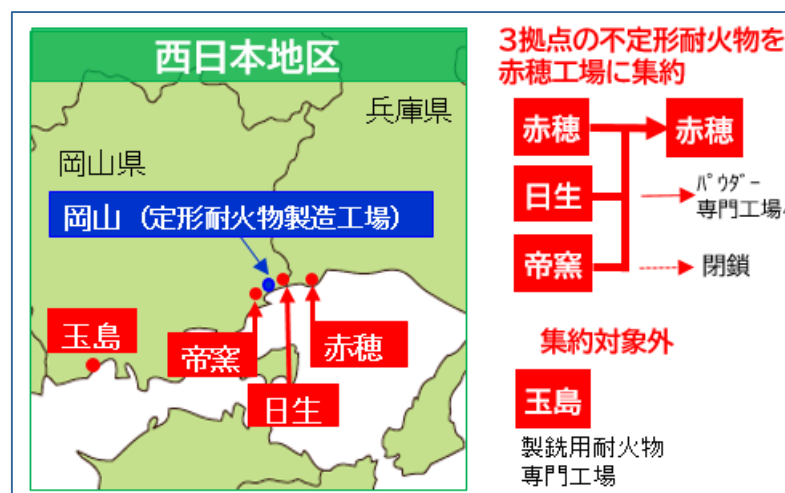
【新プラント建設の目的】

- 西日本地区・不定形耐火物生産拠点（赤穂工場、日生工場、帝窯工場）の集約
- 生産性向上および品質管理上で重要なトレーサビリティの強化

【新プラントの概要】

所在	兵庫県赤穂市中広東沖1576-2
生産品種	不定形耐火物（粘土・高アルミナ質）※1
主要設備	秤量設備、混練設備、立体倉庫
生産能力	5,000 t / 月 生産性：従来比約 2 倍※2

- ※1 不定形耐火物（塩基性）は赤穂工場旧プラントで生産
 ※2 従来の3拠点の平均との比較



西日本地区・不定形耐火物生産3拠点の集約化



赤穂工場 新プラントの外観

今年度中に、西日本地区の不定形耐火物生産 3 拠点の赤穂工場への集約を完了する

ご注意

本資料は、2025年3月期第1四半期決算（2024年4月～2024年6月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2024年8月5日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。